

le départ

un film de Jerzy SKOLIMOWSKI
Jean-Pierre LEAUD - Catherine DUPORT



Elisabeth Film 1967

STAFF
director Jerzy SKOLIMOWSKI

screenplay Jerzy SKOLIMOWSKI

director of photography Willy KURAJA

editor Bob WADE

music Krzysztof T. KOMEDA

chanson Christiane LEGRAND

CAST
Jean-Pierre LEAUD

Catherine DUPORT

Jacqueline BELL

Paul ROLAND

Leon DOLY

John DOBRYNINE

Paul FRERE

distributed by STANCE COMPANY

猛スピードで疾走するポルシェ

出発

イジー・スコリモフスキ監督作品
ジャン・ピエール・レオー
カトリーヌ・イザベル・デュポール

青春の無垢な魂の輝き

疾走とストップモーション

山田宏一 (映画評論家)

静止した画面が急に動き出し、主人公のジャン＝ピエール・レオーがいきなり走りだす冒頭から、『出発』は息せき切って走りつづける青春映画だ。

跳ぶ、はねる、車をぶっ飛ばす。行儀は悪いがエネルギーが迸り出るとともに、元気はつらつ、自由奔放、挑発的ないたずら、おふざけの連続だ。アメリカのサイレント喜劇のドタバタ調で——といっても安易なコマ落とし撮影など多用しているわけではないのだが——車の衝突で大喧嘩。路面電車の走る道のまんなかになの字に寝そべっても、連続活劇やスラップスティック・コメディのギャグのように、電車はわきの線路にすっとそれて行ってしまふ。チャップリンのように乳母車の赤ん坊からりんごを奪ってかじったり、『勝手にしやがれ』や『気狂いピエロ』のジャン＝ポール・ベルモンドをまねて自動車泥棒を試みても、キートンのように、あるいはジャック・タチのように、小さな犬に吠えられて逃げ出すしかないジャン＝ピエール・レオーだ。

「ポーランドのゴダール」の異名をとった亡命中の若き俊才、イェジー・スコリモフスキ監督 (29歳であった) が1967年に撮ったベルギー映画である。ジャン＝リュック・ゴダールが羨望と親愛の情をこめて評したように「ポーランド的でやぶれかぶれ」の映画なのである。

そのゴダールの『男性・女性』からぬけ出てきたようなジャン＝ピエール・レオーとカトリーヌ・デュポールが『出発』の青春コンビである。二人が大きな鏡を持ち歩くところは、スコリモフスキ監督の兄貴分と同じポーランド映画の「失われた世代」の亡命監督、ロマン・ポランスキーのすばらしい短編映画『タンズと二人の男』の記憶につながる印象的なシーンだ。鏡をのぞきこむと空が見える。両端にビルが逆さまにゆれる。ジャン＝ピエール・レオーがつまずいてつんのめり、鏡がこなごなに割れても、そのまま、逆回転でたちまち元に戻る。リアルな街の風景のなかで、さりげなく詩的幻想に彩られた不条理な世界だ。それもスコリモフスキ監督の言う「ユーモアによって修正された不条理」の世界なのである。

にもかかわらず、涙はこらえても無謀な暴力だけは押さえ切れない青春の悲痛な衝動が伝わってくる。とらえどころのない欲望に駆られ、屈辱の日々を送るだけの青春なんてむなし馬鹿騒ぎと叫びつづけるかのように荒々しく高鳴るジャズの音色が、クリスチアーヌ・ルグランの歌うやさしくささやくようなワルツに変わる。青春のシンボルでもあるかのようなボルシェを探して必死に走り回ったジャン＝ピエール・レオーのこわばった表情が幸福な戸惑いのように燃えくずれていくハッピーエンドは、スーザン・サイデルマン監督の『マドンナのスーザンを探して』にも拙劣ながら踏襲されることになるだろう。

あきらめなのか、新しい人生へのお出発なのか——ちょっとせつないけれども心なごむラストシーンだ。

シュールで詩的な映像美がゴダールにも絶賛されている ポーランド・ヌーヴェルヴァーグの至宝イェジー・スコリモフスキが描く、 珠玉の青春映画、日本初公開!

ベルギーの街並みを猛スピードで疾走するボルシェに青春を賭ける青年が恋に目覚めて大人へと出発する…
青春の終わりを象徴的に描いた映画史に残る衝撃のラストシーンが幻の傑作として神格化され、日本でも長い間公開が待たれていた。
途切れることなく画面から流れるジャズとシャンソンが美しく鮮烈なメロディーを奏でている。
この映画は、1960年代の終わりに生まれた奇跡のような映画である。

1967年ベルリン国際映画祭グランプリ、国際批評家大賞受賞

le départ 出発

監督:イェジー・スコリモフスキ

脚本:イェジー・スコリモフスキ、アンジェイ・コステンコ 撮影:ウイリー・クラント 音楽:クシシュトフ・T・コメダ シャンソン:クリスチアーヌ・ルグラン
キャスト:ジャン＝ピエール・レオー カトリーヌ＝イザベル・デュポール ジャクリーヌ・ビル ポール・ローラン レオンドニー ポール・フレール

1967年/ベルギー/90min/35mm/モノクロ字幕

翻訳:寺尾次郎 配給:スタンス・カンパニー 宣伝協力:スロー・ラーナー

後援/駐日ベルギー大使館



矢部直
United Future Organization D.F.プロモーション
60年代なる終わりの始まり——真夜中の街路で盗んだボルシェは逃げ去る恋を追いかける。
柔らかな肌したヌーヴェルヴァーグのアイドルを乗せて、主人公は巡りゆくゴールの先に映る未来に向かって出発していった。なんと映画のような映画なのでありましよう。



川原亜矢子
モデル・歌手
物語をより深く味わえるスピード感たっぷりの映像に、最後まで目が離せません。若者が求める夢への道と現実が、ジャンソンと、ジャズにのって、現実の私達に強く語りかけてくれています。



クリストフルメール
ファッションデザイナー
この映画は結局のところ夢に似ている。その少し風変わりなアンビエンスが私達を魅了する。
現実とは根柢のないものに巻き込まれ、人は夢を見た後のように不思議なセンチメンタルを感じて映画館を出る。
この映画の魅力で貴方は、すっかり満たされるのである。

日本初公開!待望のレイト&モーニングショー!!

●4月10日(土)より5/7(金)までレイトショーより9:15より1回上映(日曜休映)

●4月24日(土)より5/7(金)までモーニングショー あさ10:25より連日1回上映

オリジナル・サウンドトラックCD付チケット¥2,300限定発売! *劇場窓口のみで発売 残りわずか!!お早めに

前売特別鑑賞券¥1,500発売中! (当日料金 一般¥1,800/学生¥1,500の処) *劇場窓口、エスト1PG、チケットセゾン、チケットぴあにてお求め下さい。

●毎週土曜日レイトショーのみ先着100名様にベルギービール(オリジナル・グラス付)、20名様にオリジナル・コースターをプレゼント! 協賛/小西酒造株式会社

「出発」公開記念「ジャン＝ピエール・レオー特集」有り!
※「出発」の前売券・提示で上記特典作品が1,000円に割引!詳しくは劇場まで。

テアトル梅田
梅田ロフトB1 phone06 (6359) 1080

http://www.theatres.co.jp/cinemabox/